

横浜三工会ニュース

横浜国立大学工学部物質工学科工学系同窓会

【目次】

- ❖平坂敏夫副会長挨拶
- ❖理工学部設置について
- ❖活動について
- ❖会計報告について
- ❖教職員の異動について

第3号

発行日：平成22年9月1日

横浜三工会から会員の皆様へニュースレターをお送りします。まず、平坂敏夫副会長からご挨拶を頂きました。

平坂敏夫副会長 挨拶

2005年に会社を定年退職後、私は長崎の私立大学で理事、教授として私大の経営と教育に5年間携わってきました。その経験から現在大学のおかれている状況について述べてみたいと思います。

私立大学の経営環境は少子化による18歳人口の減少により、大変厳しいものとなっています。日本私立学校振興・共済事業団によれば、2010年度に定員割れした4年制私立大学は全体の38.1%にあたる217校にのぼり、地方の私立単科大学では学生募集を停止するところも出ています。私立大学では入学定員に対する充足率に応じて国からの経常費補助金のうち、一般補助が不交付となる措置が講じられ、新入生を集められない大学は淘汰される運命にあります。

国立大学も今のところ私立大学のように定員割れに苦しむことはないものの、国からの補助金である運営費交付金（平成22年度は約1兆611億円で、国立大学法人予算収入の約6割を占めます。横浜国立大学の場合、運営費交付金は約84億円）は毎年1%ずつ削減され、事業仕分けの対象となって今後更に削減されれば、教育と研究で多大な支障が出てくると危惧されています。

この様な中、「大学力」「大学の世界ランキング」「大学のブランド力」等々と大学の実力が第三者から厳しく評価されるようになってきました。大学の実力は①大学の教育力（教員の力）、②学士力（在学生の力、就職力）それに③卒業生の社会での活躍や貢献度の三つの要素が総合的に加味されて一つの大学の實力となってくるのだと思います。

實力のある大学にはヒト、モノ、カネが自然に集まる求心力を持つことになり、財務力、教育力、研究力がますます強化されるようになっているのです。大学の實力は大学の教員と学生だけでは向上できません。教員と学生と卒業生の三位一体となった有機的な結合のもとでの活動が大学の實力向上には不可欠なのです。

「変化こそ成長の原動力。変化なくして成長なし。」とされています。大学の学部学科も社会のニーズに合わせて変化しなければなりません。以前は学科名を聞けば仕事が連想できたのですが、現在は業際学際が進み仕事と一対一に対応していないのが現状です。

2011年4月から、横浜国立大学では21世紀の社会が必要とする人材育成の取り組みを一層充実させるため大幅な再編（学部・大学院）を行うことを計画しています（詳細はHPを参照ください）。ホームページによると横浜三工会に関係する改編としては、工学部・物質工学科「物質のシステムとデザインコース」は、理工学部の化学・生命系学科「化学応用教育プログラム」に再編される予定です。

我が横浜三工会は教員、在学生とお互いに手を組み母校のますますの活躍と発展に寄与して参りたいと思います。

平成23年度理工学部を設置！！

平成23年度(2011年度)から従来設置されていた「工学部」が改組され、「理工学部」が新設されます。この学部改組に伴い、理工学部内には「機械工学・材料系学科」、「化学・生命系学科」、「建築都市・環境系学科」、「数物・電子情報系学科」といった4学科が開設される予定です。物質工学科は「化学・生命系学科」に属し、本コースは、「化学・生命系学科」の「化学応用 Education Program(EP)」として、教育研究活動を行っていきます。

詳しくは、<http://www.es.ynu.ac.jp/>のホームページをご覧ください。



2009 年度横浜三工会総会・特別講演会・懇親会を開催

横浜三工会総会・特別講演会・懇親会を 2009 年 11 月 8 日に開催致しました。

2008 年度でご退任された安藤柱名誉教授から「自己き裂治癒能力が優れたセラミックスの開発とその応用」についての特別講演を頂き、その後、総会を開催しました。また、懇親会は、ホームカミングデーの交流会と同時開催と致しました。

総会において、2008 年度の活動報告と会計報告が行なわれ、2008 年度の会計報告が承認されるとともに、物質工学科工学系 4 年生を対象に、上ノ山会長から学業優秀者の表彰として横浜三工会学生奨励賞が 10 名に授与されました。



会計報告について

2009 年度の横浜三工会総会で認められた 2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日までの会計を以下に報告させていただきます。

収入		支出	
平成 20 年卒業生・修了生同窓会費	203,000	設立準備費用(印鑑、印紙代、設立準備会)	62,972
平成 21 年度卒業生・修了生同窓会費	201,000	横浜国立大学工学部同窓会連合年会費	70,000
設立準備金 (横浜化工会)	332,200	平成 20 年度総会費用(ラベル、資料発送代他)	258,345
設立準備金 (横浜安工会)	270,000	平成 20 年度総会懇親会費	166,450
設立準備金 (横浜エネルギー会)	86,000	学生表彰	22,638
設立準備金 (環境エネルギー安全工学同窓会)	42,800	その他(香典、文具他)	12,509
郵便振り込み (年会費、総会懇親会参加費)	851,050		
平成 20 年度懇親会総会参加費	132,000	小計	592,914
雑収入(寄付、利息等)	10,069	普通貯金残高	1,145,119
		手元現金残高	390,086
		小計	1,535,205
合計	2,128,119	合計	2,128,119

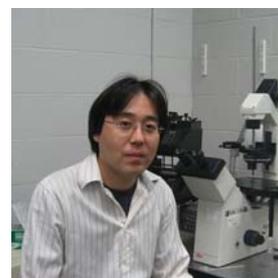
教職員の異動について

☆ 2010 年 3 月 31 日付けで古川静男技術職員が退任されました。

昨年度 7 月に赴任されている金井俊光助教から紹介文を頂きました。以下に掲載させていただきます。

金井 俊光助教

2009 年 7 月 1 日付けで物質工学科物質のシステムとデザインコースの助教に着任致しました。東京大学大学院応用化学専攻博士課程修了後、(独)物質・材料研究機構、(独)理化学研究所、ハーバード大学でのポスドク経験を経て、このたび、横浜国立大学でお世話になることになりました。ポスドク時代から、コロイド・ゲル・ミセル・エマルジョンなどのソフトマターの面白さに引かれ、特にソフトマターの光学材料としての応用を目指した研究を行って参りました。今後もソフトマターを中心に新しい機能性材料の研究開発を行っていきたくと思っています。これまで学生を指導する機会はありませんでしたが、物質工学科では教育にも力を入れて取り組み、学生が社会で立派に活躍できるように、しっかりと指導していきたくと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



横浜三工会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

横浜国立大学工学部物質工学科物質のシステムとデザインコース内

TEL : 045-339-3991, FAX : 045-339-4012, E-mail : sanko@ml.ynu.ac.jp

<http://www.msdl.ynu.ac.jp/lab/sankou-kai>